

<2022.2.22. 文科省との面談レジュメ>

★香害被害者の声：担当は、母娘で柔軟剤臭が原因で化学物質過敏症を発症し、娘さんが小学校高学年から中学校にかけて、別室登校、そして不登校になってしまった経験談。

★マイクロカプセルが付着することでの移香の害、マイクロカプセル画像。ナノプラスチックの問題についての追加資料の説明をする。

★要望1：「香害、化学物質過敏症についての厚労省の研究が進み、知見が積み重なったのを確認した上で変えていくのが流れ。新たに示す内容があるかは引き続き検討が必要。」とのこと。

★要望2：TVOC測定について。「学校の基準というより、厚労省・環境省を含めての環境基準。TVOCの評価が有効だという大きな流れがあるのであれば、採り入れていく。」

・児童生徒がいる状態でのVOC測定について。『学校環境衛生基準』の考え方に基づく測定方法があるので、子どもたちが居る環境では難しいと思う。」

★要望3：「実態把握は特定の仕方が難しいと思う。困っている子供たちの症状に応じて、学校側が配慮・対応していくことが大事。そうした対応を学校に周知し、事例として共有していくことが必要。教職員の意識啓発も大事。科学的研究が進めば、それに合わせる形で対応も色々出てくる。」
個別的配慮は当然だが、別室に隔離するのではなく、合理的配慮として、化学物質のバリアをなくし、化学物質に弱い子供たちの、インクルーシブ教育ができないか訴える。

★要望4：教職員、特に校長の香害への認識を高めるように、重ねてお願いする。

★「化学物質が多い少ないという環境の影響について、文科省では評価するのが難しい。研究の成果を当てはめて、学校での対応を示していく立場。」とのこと。こちらからは、北米では学校やCDCでのフレグランス・フリーの取り組み、困った子どもが出る前に、大人が子供の環境を整えられないのかなど話す。「文科省から各学校に香料自粛を検討しませんかという呼びかけは、規制と受け止められるので、根拠なくできない。自治体教育委員会・学校で判断してもらう。啓発はしていく。」に留まる。文科省独自のポスターを作れないか要望。